

令和7年度岡山医療専門職大学事業報告

(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

I 事業の概要

1) ビジョンと目標の達成度について

岡山医療専門職大学（以下、本学）は健康科学部理学療法学科、作業療法学科2学科を設置する専門職大学として令和2年4月1日に開学した。

第1期（令和2年～5年度）が終了し、第2期（令和6年度～9年度）の4ヶ年計画をすでに策定し、令和6年度からその実施をしてきた。しかし、認証評価の期間にあわせて中期計画を立てる方が望ましいとの判断により、令和7年度より7年間の中期計画（令和7年度～令和13年度）を策定した。そのため、第2期の4カ年計画は令和6年度で終了し、同中期計画に統合された。

よって、本報告書は、令和7年度から始まった7年間の中期計画における1年目の事業報告ということになる。

当該中期計画のビジョンと目標は以下のとおりである。

【岡山医療専門職大学 中期計画のビジョンと目標】

1. 計画の基本方針と期間

- **目的:** 開学後の学年進行期（4年間）終了を踏まえ、高い専門性と倫理観を備えた未来のプロフェッショナルを育成し、大学を画的に充実させることを目標としている。
- **期間:** 2025年4月1日から2032年3月31日までの7年間。
- **最重要課題:** 第1期で達成できなかった「定員充足」および「中途退学者の減少」を最重要課題として掲げている。

2. 教育サービスの質の向上と学生確保

優秀な学生を確保し、質の高い医療専門職を育成するために以下の施策を実施する。

- **広報活動の強化:** 高校2年3月のオープンキャンパス充実、マスメディアやSNS（ショート動画やチャットボット）の活用、保護者（特に母親）へのアピールを強化する。
- **教育課程の充実:** 地域に根差した「岡山経営者論」などの展開科目を推進し、社会のニーズに応じた柔軟なカリキュラム運営を行う。
- **国家試験・就職対策:** 「高い実績→第一志望校化→優秀な学生の確保」という好循環を目指し、教員組織全体で国家試験対策に取り組む。
- **基礎力の育成:** 英語の実践教育やリメディアル教育（補習教育）、論理的思考を養う「基盤ゼミ」を通じて、自ら学び探究する力を育てる。

3. 社会人の受け入れ

社会人学生を積極的に受け入れ、学び直し（リカレント教育）を推進する。

- **編入制度の検討:** 多様なバックグラウンドを持つ学生を受け入れるため、期間内に編入制度の研究を進める。

4. 研究に関する目標

「実践の理論」を基本とし、教育に支障のない範囲で研究活動を推進する。

- **研究成果の発信：** 国内外の学会発表や論文投稿を推奨し、英文校正やオープンアクセス化の支援を検討する。
- **外部資金の獲得：** 教員全員の科学研究費（科研費）獲得を目指すとともに、地域企業との共同研究などによる資金確保を図る。
- **地域貢献：** 自治体の審議会委員や講師派遣などを通じ、専門知を地域社会に還元する。

5. 中途退学者減少への取り組み（最重要課題）

学生一人ひとりに寄り添った重層的な支援体制を構築する。

- **学修支援：** 基礎学力に課題がある学生に対し、自尊心に配慮した個別指導や再履修の機会を提供し、学力不振による中退を防ぐ。
- **メンタル・生活支援：** カウンセリング体制の充実、学生の居場所の確保、姉妹校との連携による朝食・昼食提供の拡充を検討する。
- **経済的支援：** 奨学金制度の活用や、公的な支援制度への橋渡しを確実に行う。

6. 基盤整備と連携

- **教員の質向上：** 学位の有無のみに捉われず、教育能力や学生への愛情を重視した採用を行い、採用後の学位取得も支援する。
- **地域・他学連携：** 大学コンソーシアム岡山や専門家団体（理学療法士会等）との連携を深め、地域社会における大学の認知度を高める。

II. 計画に基づいた事業の検証

まず「定員充足」については、令和6年度入学定員充足率（以下、充足率）は理学療法学科が42.5%、作業療法学科が33.3%（定員40名から30名に変更）であったが、令和7年度入学試験に基づく定員充足率については、前者が66.3%、後者が36.7%となり、いずれも入学者数は増加し、一昨年水準に回復した。しかしながら、いまだ定員充足には至っていないことから、要因を分析抽出して、次年度の充足率の確保に向けて対応をとりたい。また、中期計画にそって着実に定員充足策を進めて参りたい。

「教育サービスの質の向上」については、専門職大学の特徴である「理論と実践を架橋した教育」の実践を本学の教育の柱とし、それを目指した教育を図ってきた。教員においては、この本学の教育に対する考え方が浸透してきており、令和7年度の学生授業評価アンケートでは、前期では、理学療法学科5.4、作業療法学科5.4、後期では、前者が5.5、後者が5.3と高い評価を得ている（いずれも6点満点）。この結果から、学内における教育の質は担保されていると考えている。さらには、最初の卒業生を送り出した令和5年度に続いて、その良い面を踏襲しつつ、さらなる改良を加えてきた令和6年度は、この「理論と実践を架橋した教育」が、各々の実務教育の中で活かされ、理論に裏打ちされた実習が実践されてきた。令和7年度の実務教育この「理論と実践を架橋した教育」がさらに促

進されたと評価している。

またこれに加えて、令和7年度の国家試験の合格率（後述）の観点からも、令和7年度において、専門職大学としての教育の質と実績は担保されたと考えられる。

3つ目の「研究」については、各教員は「実践の理論」に重きを置いた研究に取り組んできた。令和7（2025）年度の学術業績は、執筆活動では、著書では、英文1編、和文2編、論文では、英文6編、和文17編で合計23編であった。学会発表では、国際学会3件、国内学会28件で合計31件であった。外部資金の獲得状況は、科学研究費が5件、厚生労働科学研究費1件、その他1件の計7件であった。

また、学内の論文発表媒体（紀要）である「岡山健康科学」は第11巻を令和8年3月31日に発行することができた。内容は、英文総説が2編、和文総説が1編、原著が2編、短報が1編、症例報告が1編と充実した内容となっている。これも、令和7年度の教員の研究の大きな成果であると、評価している。

4つ目の「教員の資質の向上」については、学外講師によるFD活動に加えて、定期的に教員全員が集まってFD活動の一環としての勉強会を開催し、各教員の教育に対する姿勢や考え方、実践方法等や研究に関する知識や情報を発表し、教員の資質と力量の向上に努め、教育の水準と実績の担保を図るべく努力してきた。令和7年度は、勉強会を必要時の開催とした。また、講義等で、オンラインで受講できなかったFDに関しては、動画コンテンツ化し、それを視聴することでFDとしている。FDでの各教員の講演内容から判断して、教員の質の向上が図られており、成果は十分に担保されていると判断している。

5つ目の「地域間及び大学間連携」に関しては、開学と同時に「大学コンソーシアム岡山」に加盟し、毎年、各種会議やイベントに参加してきた。令和7年度も、2回開催された代表者会議に出席し、各大学との意見交換を行った。大学コンソーシアム岡山が主催する各種会議やイベントへの参加により、大学間および地域との連携を図った。本コンソーシアムが主催する市民向けの公開講座「吉備創生カレッジ」には前後期に各1回講師を派遣し、各講師の専門領域の市民への啓蒙を図った。

さらに令和2年度に発足した全国の専門職大学で組織される「専門職大学コンソーシアム」には当初から参加しているが、令和7年度も参加（Web会議）して意見発表を行い、専門職大学間の連携を図った。

5つ目の「地域社会や他学との連携」については、本学が地域社会貢献に資する使命から重要な活動であるばかりか、本学の認知度の向上については入学者の確保においても極めて重要である。本学は、理学療法及び作業療法の専門教員の集団であることから、各教員においては、それぞれの専門性を活かした地域連携活動を実践し、地域住民の心身の健康の維持向上に貢献してきている。令和7年度も前年に引き続き、地域住民の健康寿命の延伸、各種スポーツにおける傷害予防活動、高校生の部活動に対するフィジカル及びメンタルサポート活動、子ども及び特別支援児支援活動等を幅広く展開してきた。本学が立地する岡山市北区大供・桑田地区における健康サロンにおける地域貢献のみならず、個々の教員がその専門性を活かして、地区の健康教室の講師をシリーズで勤めたり、自閉症児のサポートを行って来たりした。また岡山県下の県立高校との連携を図るため、岡山県教育委員会との間で、令和3年度に連携協力の協定書を交わしているが、この協定に基づき、令和8年度以降も高大連携を具体的に進めていく計画である。また令和7年には、近隣の岡

山市立桑田中学校を訪問し、同校のスポーツ系課外活動におけるサポート等について、協力を進めてゆくこととなった。高大連携だけでなく、中大連携活動として、本学のスポーツに強いリハビリテーション学部という特色を活かしたものにすることが期待される。この「中大接続」には、附属中等学校と大学の接続という意味もあるが、大学による地域の中学校への支援という側面も強調されている。つまり、特定の附属校だけでなく、地域の大学が近隣の公立中学校と連携する形が一つのモデルである。より具体的な支援としては、中学校教員の過重労働対策の一環としても推進されている課外活動の社会化のサポートを大学が行うことが考えられている。大学のサークルが、指導者不足に悩む中学校の部活動を技術的にサポートする試みが始まっているが、本学は、リハビリテーションの専門職を養成する大学であるという特色があり、単にサークルの学生が中学生の指導を助けるだけでなく、スポーツ外傷やトレーニングに秀でた教員が、その専門性を活かして中学のスポーツ活動を支援することが可能である。

保護者との連携については、保護者連絡会を令和7（2025）年度は、令和7（2025）年7月27日（日）に開催した。当日は64名の保護者が参加され、盛会の裡に開催された。質疑応答では教務・入試・就職など多岐にわたる質問が寄せられたが、大学側から丁寧な説明を行うことで相互の意思疎通を図った。保護者と大学の連携強化に資する、実りある機会となった。

また、令和7年10月1日には、令和6年度の大学及び教職員の活動実績をまとめた「岡山医療専門職大学年報 2024（令和6）年度」を発行し、全国の専門職大学、岡山県下の全大学、全実習先施設及び全教職員（非常勤を含む）に配布した。年報により、本学の1年間の活動実績の詳細が把握され、本学が幅広く理解されることと期待される。2025（令和7）年度版の年報は現在作成中であり、令和8年9月1日の発刊を予定している。

また、令和6年度には、一般社団法人 専門職高等教育質保証機構による「専門職大学分野別認証評価（リハビリテーション分野）」を受審した。11月19日・20日に実地調査を受審し、現場で若干の指摘事項があったものについては、令和6年度にその改善に向けて活動を始めた。具体的には、その場で指摘のあった大学の魅力度をさらに向上させるべきという課題のために、令和7年度をまたずして、令和6年12月より「魅力度向上委員会」を設け、月に1回、大学の魅力度向上について、教学側の委員と経営側の委員が一緒になって議論を行い、実行に移している。また令和6年度末に文書で貰った公式審査最終報告において、「岡山医療専門職大学 健康科学部 理学療法学科ならびに作業療法学科は、専門職大学設置基準をはじめ関係法令に適合し、専門職高等教育質保証機構が定める評価基準に適合しています。【判断の理由】専門職大学評価基準を構成する22の基準をすべて満たしている。」との評価を得ることができた。

そうした中で、基準は満たしているものの、改善が望ましい点として挙げられた課題について、令和7年度から改善に取り組んできたが、その成果とについて、いかに列挙する。「学生に対する各種アンケートでは、学生の修得した能力を具体的に問うような設問とすることが望まれます。また、学生全体の平均値だけではなく、学科別、学年別の調査結果を分析して改善に資することが望まれます。」

→対応策：

具体的な指摘に応じて、令和6年度内に学生に対するアンケート内容および設問を学生

の修得した能力を具体的に問う設問に修正した。

令和7年度は、IR委員会を中心に、学生全体の平均値だけでなく、学科別、学年別の調査結果を分析して、それを運営委員会にフィードバックさせた。一方で、こうした調査は経年比較も非常に重要であることから、コアとなる設問については毎年それを変えることなく、維持してゆく必要がある。

「学生が身につけるべき資質・能力（コンピテンシー）の目標が、より具体的かつ明確に示されることが望まれます。」

→対応策：

令和7年度に、教務委員会において、学生のコンピテンシーの目標がより具体的かつ明確に示されるように検討を行い、本学を卒業すれば、こうしたことができるようになるという分かりやすい形での表現になるように努めてきた。

「教員の移動がかなり頻繁であり、学生の学修環境や教員間のコミュニケーションへの適切な配慮が望まれます。」

→対応策：

令和7年度も、引き続き教員の移動があり、外形的には、指摘のような状態が続いた。ただし、教員の移動に伴って、学生の学修環境に悪影響を及ぼさないように、授業担当がスムーズに引き継がれるように努力を行った。教員間のコミュニケーションに適切な配慮を行うことについても、それが促進されるように教学組織内で努力を続けてきた。その成果として、学生の学修環境は保たれたものと評価している。

「在籍者減、進級率低下、中途退学者増等（定員未充足）の対策として、組織一丸となった取組が望まれます。」

→対応策：

入学者確保に関しては、学園理事長の強いリーダーシップのもとで、令和7年度に準備を進め、令和8年度入学生から、3コース制を新設することができた。また、令和8年3月22日に行われたオープンキャンパスでは、令和9年度の受験生確保の大切な機会と捉え、学生中心のプログラムとし、参加者から好評価を得た。

進級率の低下および中途退学者増への対応としては、令和7年度は、教務委員会を中心として、適切な進級判定と、学習意欲のある学生への丁寧な対応が両立できるような方策を講じてきた。

「社会人経験者や大学卒業生の立場にたって進路の多様性の観点から入学者受け入れを進めることが望まれます。」

→

令和7年度に教学側として、社会人入学のメリット・デメリットについて検討を行い、学生確保策としても、また、社会のニーズに応える意味でも、導入は考慮してよいものと考え、引き続き検討する。

この分野別認証評価に加えて、令和8年3月30日付で、本学健康科学部作業療法学科が提供する教育プログラムが、日本作業療法士協会および世界作業療法士連盟（World Federation of Occupational Therapists:WFOT）の定める基準を充足していることが認定された（認定期間：2026年1月1日～2030年12月31日）。WFOT認定を受けている

ことで、卒業生は海外（WFOT 加盟国）で就労する際の資格審査において、国際水準の教育を受けたことが正式に認められるという大きなメリットがあり、このことは本学の建学の精神である「国際的視野を養う」にもつながる大きな出来事であり、高く評価できるものである。

以上のような令和7年度の活動を総括すると、掲げた目標については、なお充足率の確保に課題を残したが、この課題を除いた他の目標については、ほぼ達成できたと思われる。

ビジョンとして掲げた内容についても、前述の目標の達成状況からは、大学の基盤づくりはほぼできたと思われ、国家試験の合格率や就職率（後述）及び創立以来過去7年間の本学の教育課程の実践に鑑みると、ディプロマ・ポリシーを満たすワンランク上の人材の育成はできており、中国地方唯一の専門職大学としての責務は果たせたものと考えられる。一方では、充足率の未達成については、なお課題として残すことになり、今後の対応が求められる。

2) 具体的な大学運営

具体的な大学運営としては、令和7年度の入学式は、保護者の参加を学生1人に対して、1名に限り認めて、4月1日に執り行われた。

卒業式は、令和8年3月13日に、保護者の参加を1名に限り認めて行われ、第3期生を卒業生として送り出した。令和7年度は、第一期の卒業生における課題をフィードバックしつつ、二期生卒業に向けての様々な新たな教育課程への取り組みを行い、本学が掲げるディプロマ・ポリシーを満たす学生を社会に送り出すべく、全教職員で取り組んできた。「臨地実務実習については、各学科においては、1年生の見学実習を令和8年2月16日から2月28日の内4日間、学外施設において実施した。3年生前期には、評価実習を、理学療法学科及び作業療法学科で令和7年8月4日から15日間、実施した。総合実習Ⅰについては、3年生後期に、理学療法学科では令和8年1月5日から40日間、作業療法学科では令和8年1月5日から45日間、実施した。総合実習Ⅱは、4年生前期に、理学療法学科では令和7年7月22日から40日間、作業療法学科では令和7年7月22日から45日間、実施した。いずれも学外施設で実施した。なお、評価実習の前には医療面接試験、総合実習Ⅰの前にはPre OSCE、総合実習Ⅱの終了後には、Post OSCEを実施し、実習前と実習後の評価を行った。実習にあたっては、各実習施設との連携を密にして、実習の質の担保に努め、順調に実習は遂行された。」4年生については、本学では初めての教育課程となる卒業研究と卒業論文の作成が実施された。卒業研究では、各々は、療法士の視点に立った適切なテーマを設定し、担当教員の指導の下、粘り強く、弛みなく研究を遂行し、成果に結び付けた。令和7年11月12日に開催された卒業研究発表会において、20の研究が、全教員と全4年生及び他学年を前にして口頭で発表された。どの研究もレベルの高いものであり、さらに一部の研究は、一般論文化も可能なほどの質を備えていた。研究内容および発表が優れていた優秀研究に対しては、専攻の結果、優秀論文賞が授与された（理学療法学科1研究、作業療法学科1研究）。全ての研究成果は令和8年3月1日付で、「2025年度卒業論文集」としてまとめた上、発刊された。この卒業論文集は、関係各所に配付され、本学の卒業研究のレベルを認知してもらう良い機会となった。

国家試験（詳しくは後述）対策に関しては、全学的な「国家試験対策委員会」を設置し、

1 年生から国家試験に向けての対策を講じる体制を構築していた。この委員会を中心として、各教員の個別指導、頻回の学内模擬試験の実施、学外模擬試験の受験等、その結果のフィードバックと、学生の特性に応じたきめ細かい対策をとってきた結果、国家試験では、理学療法学科が 95.2%、作業療法学科が 90.9%の合格率であった。これは、100%合格という目標には届かなかったが、一定の評価が可能と考えている。

Ⅲ 事業報告

1. 教育領域

令和 7 年度は、開学後の 4 年間のいわゆる学年進行期が終了した後 2 年目に相当した。教育領域においては、令和 5 年度に、初めての課程が複数実施された。それらの中で主なものは、「臨地実務実習」「卒業研究の実践」「卒業論文の作成」であった。

「臨地実務実習」においては、1 年生の見学実習、3 年生前期の評価実習、3 年生後期の総合実習Ⅰ、4 年生前期の総合実習Ⅱの全ての実習が、外部施設において実施した。本年度も、本学の掲げる高度な実践力の涵養を目的とした「専門技能錬成プログラム」を推進した結果、高い国家試験合格率や質の高い卒業研究といった成果として結実した。

「卒業研究の実践」と「卒業論文の作成」については、令和 6 年度に引き続き、各々の研究はいずれも質の高い内容であった。その成果は卒業研究発表会において内容が紹介され、優秀論文には賞が授けられた。また論文は「令和 7 年度卒業論文集」として発刊することができた。

これらの教育課程の実践により、令和 7 年度卒業生については、本学が求めるディプロマ・ポリシーを十分に満たすレベルの能力が身に付いたと判断された。

2. 関連領域

(1) 行事・交流関連 (学内・学外)

・新入生歓迎会

新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、学科単位で新入生歓迎会を実施し、教員と学生の交流を図った。

・七夕行事 (7 月)

学園に設置した笹に、願い事を書いた短冊を飾り、七夕を祝った。

・節分行事 (4 校合同豆まき大会) (2 月)

新型コロナ対策としての三密を避けるために恒例の豆まきは実施しなかった。

・防災避難訓練

4 月 2 日 (火) に避難経路確認、6 月 30 日 (月) に地震を想定した避難訓練を法人全体で実施し、3 回目は 1 月 6 日 (火) に地震放送および確認避難訓練を法人全体で実施した。

・学園祭 (10 月 25 日、3 校合同で開催)

一般公開で開催し、非常に盛況であった。

2. 研究領域

令和 7 年度の科研費新規採択状況は、若手研究 1 件であった。

研究種目 若手研究

研究課題名	研究代表者			2023 年度 直接経費 ※単位千円
	所属	職	氏名	
糖化ストレスによる毛細血管の退縮機 序解明と骨格筋老化との関連	健康科学部	講師	田中 雅侑	1,900

3. 教育・研究活動の質の保証と向上

令和7年度も引き続いて、専任教員の専門知識・指導力向上を目的とし、学内外での研修に積極的に参加し自己研鑽を行った。また専任教員の授業能力や教育効果を高めるためのFD研修（勉強会）を、FD委員会を中心に開催した。勉強会には、全教員が集まり、各教員間の教育に関する実践方法や研究紹介等を行い、教育の質の向上や研究内容の共有を図った。この勉強会は、各教員の教育に対する姿勢や考え方、実践方法等や研究に関する知識や情報の共有を図ることができ、連携を強めることができた。また、勉強会で得られた知識を教育現場へフィードバックすることにより教育の質を高めることができた。令和4年度からは、臨地実務実習の開始により、全教員の参加が困難となり、毎週の開催が不可能となったため、勉強会の開催回数を最小限に留め、代わりにFD委員による授業参観を実施することで、授業能力の向上を図った。

さらに、学術雑誌「岡山健康科学」の発行をはじめとし、国内外の学会発表、国内外の学術雑誌への投稿等、積極的に研究活動にも精進した。

職員の資質向上のためにSD活動の強化にも努め、事務専門職としての能力を高めた。また、教職連携推進の観点からも、FD/SD合同の研修を積極的に行なった（下記のSD区分の研修は教員もほぼ全員が受講している）。

前期・後期の講義最終日に学生による授業評価アンケートを実施しその結果を講義担当者にフィードバックし、対策を講じている。対策を含めて、学生アンケートに関してはgg+学長の評価を受け、講義内容や構成の改善に役立てた。授業評価アンケート結果は、大学ホームページで公表している。

(1) 2025 年度 FD 研修会実績一覧

日程	曜日	時間	テーマ	講師	参加者数
6月4日	水	17:00- 18:00	①着任教員の自己紹介 ②令和7年度 科研費制度改正事項について（安全保障貿易管理の要件）	作業療法学科 中 島龍彦講師 大学事務局 総務 チーム 吉田真智子氏	20
9月10日	水	13:00- 14:00	生成AIの教育・研究での活用法事例～ AIに各種の研究用のプログラムを作ら せた事例など～	関西医療大学 保健医療学部 吉 田直樹氏	19

8月27日	水	15:00- 16:00	学園FD 岡山市メンタルヘルス研修	岡山大学 西村大 樹氏	全員
11月5日	水	13:00- 13:30	共同研究発表 サルコペニアを予測する新規バイオマ ーカーの開発 ～爪郭部毛細血管： Nailfold capillary：NFC～	理学療法学科 田 中雅侑講師	20
3月18日	水	16:00- 17:00	GPS-Academic の説明	株式会社ベネッセ i キャリア 阿久根 佑太氏	15

2025 年度授業参観実績

該当科目	該当学科	該当学年	参観日
地域理学療法学	理学療法学科	3年B	6月9日(月)
運動学実習	作業療法学科	2年	6月5日(木)
老年期障害作業療法学	作業療法学科	2年	11月4日(火)

(2) SD 研修

令和7(2025)年度のSD研修会の開催実績一覧

日程	曜日	時間	テーマ	講師	参加者数	備考
8月20日	水	10:00-11:00	インターネット出願システム説明会	㈱Beein 衣川 瑛氏	9	
8月27日	水	15:00-16:00	メンタルヘルス研修	岡山大学 西村大樹氏	15	
10月20日	月	13:30-15:00	第4期認証評価説明会	公益財団法人 日本高等教育評価機構 常務理事・事務局長 伊藤 敏弘氏	9	
3月10日	火	14:00-15:00	インターネット出願システム説明会	㈱Beein 衣川 瑛氏	4	

司書研修

日程	曜日	時間	テーマ	講師	参加者数	備考
11月21日	金	13:00-15:50	令和7年度図書館等職員著作権実務講習会	鳥生 浩司(文化庁著作権課 著作権登録・普及係 係長) 本多 竜二(文化庁著作権課 著作物流通推進室 管理係 係長) 春原 寛子(文化庁著作権課 著作物流通推進室 振興係 係長)	1	司書

4. 学生支援

(1) 経済支援・奨学金制度

岡山医療専門職大学では優秀な学生を確保することを目的として、次の奨学金制度を設け、本山学園奨学基金より支弁している。

- ・本山学園特待生制度

総合型選抜、学校推薦型選抜（指定校制推薦・公募制推薦）合格者、一般選抜（1次）受験者に対し、特待生チャレンジ試験（特待生試験）を実施し、優秀な成績を収めた者を特待生として奨学金を支給した。

（支給額）

2024年度生まで

ランク S146万円、ランク A73万円、ランク B30万円

2025年度生から

ランク S 90万円、ランク A 60万円、ランク B 30万円

※学校推薦型選抜（指定校制推薦・公募制推薦）合格者、一般選抜（1次）受験者はランク Bのみ対象とする。

・成績優秀者奨学金

前年度の成績優秀者（年間成績上位者）に支給した。本学では、成績評価方式として GPA(Grade Point Average)制度を採用しているため、GPAにより奨学金の選考を行った。

ランク A は、学業成績評価が全て S 以上の者の中から選考した（2年～3年次）。

（支給額）

2024年度生まで

ランク A 100万円、ランク B 50万円、ランク C 30万円

2025年度生から

ランク S 90万円、ランク A 60万円、ランク B 30万円

・岡山一人暮らし新生活スタートアップ応援制度

岡山県外及び岡山県北部から本学に入学した学生が、安心して勉学に取り組むことができる環境を確保するため、岡山市での新生活のスタートアップを応援する奨学金制度を2023年度生より導入し、2024年度より支給額を拡充した。

年間 16.5万円×4年間 66万円

・遠距離からの通学応援制度

意欲ある学生が安心して勉学に取り組む環境を確保するために、岡山県外及び県北部から通学する学生に対して2024年度入学生より通学費用の一部を支給している。その内訳は、年間10万円迄、4年間40万円迄である。

・ふるさと岡山就学支援制度

岡山県内の高校生の県外流出率が年々上昇している現状に鑑み、県内の大学に進学し、県内で就職して地元の活性化に資することができる支援策として、また県内在住者に対する経済的支援を望む声が大きくなってきたことから、ふるさと岡山就学支援を2024年度生より導入し支給している。その内訳は、年間10万円迄、4年間40万円迄である。

・親族割引制度

親族が本学、岡山医療技術専門学校、インターナショナル岡山歯科衛生専門学校、西日本調理製菓専門学校（2004年3月以降）を卒業または在籍・同時入学の場合、2人目から授業料を免除した。

(2) 同窓会活動

岡山医療専門職大学同窓会については、後述する学友会を中心にした学生主導の、同窓会の組織化に対して、支援を行ってきた。令和6年度は、新卒業生が誕生したことに併せて、同窓会を設置すべく準備をしてきたが、設置に至っていない。

(3) 学友会

本学では、本学の全学生で構成される学友会により、学生相互の親睦の向上ならびに福利厚生に関する運営を行ってきた。令和3年度には、学友会会則を定め、この会則に則り運営が行われている。その後、学友会活動は次第に活性化してきており、令和6年度は以下に示す9サークルが結成され活動した。

運動系サークル5団体（フットサル、バレーボール、バドミントン、ダンス、アドベンチャー）

文科系サークル4団体（エレクトーン・ピアノ、お茶、ウォーキートーキー、マリーン）

こうした課外活動については、小規模大学ならではの制約はあるものの、積極的な活動が行われていると評価している。

(4) 学生サポート

【オフィスアワー】

学生と教員とのコミュニケーションを充実させるため、各教員においては週2回のオフィスアワーを定め、学生との密な連携を図っている。

【学生相談室】

安心して学生生活を送れるように学内に学生相談室を開設し、学生からの相談を受けた。また臨床心理士による相談日を毎週水曜日に設け、精神的ケアの充実を図った。

【朝食サービス】

学生が規則正しく栄養バランスの取れた食事を300円で提供し、脳の活動と集中力を向上させ、学習意欲や能力を底上げした。

5. 施設・設備の充実

(1) 学内無線 LAN システムの構築

本学では本館・新館共に全館 Wi-Fi 対応となっている。

(2) 教育の情報化推進への取組

授業の遠隔配信等を目的とし、Zoom と Moodle を整備した。令和4年度までの見学実習は、コロナ禍により学外施設での実習ができなかったため、一部遠隔授業となったが、本整備により、円滑に実施することができた。学内の授業においても、本整備により、授業の効率化と質向上が図れるようになった。令和6年度は、コロナ禍の収束により、こうしたオンライン授業のインフラを利用せざるを得ない状況は無くなったが、リアル授業の補助としての活用には依然役立っている。具体的には、授業資料の配付や小テストの実施、オンライン環境下で指導といった面で、整備された情報環境が役立っている。

(3) 換気・空調システムの完備

感染症対策として、本館講義室、実習室、体育館等に換気性能に優れた空気清浄機を設置するとともに、空調用抗菌フィルターを付け、クリーンな環境で安心して学生生活を送れるように配慮している。

6. 社会貢献活動

(1) 地域貢献事業

令和7年度は、大学コンソーシアム岡山が主催する「吉備創生カレッジ」には2名の講師を派遣し、「バランス能力と転倒予防」「運動の消費カロリーを知ろう」の2講座を開講した。これは、大学コンソーシアム岡山の根幹をなす事業であり、本学教員としても、大学本務に全力を尽くす中で、時間をやりくりして、そこに出務したことは高い評価をしている。特に、大規模大学と比べて遜色のない人数を派遣できたことは、本学の地域貢献に大きく資すると共に、本学の認知度アップにも非常に重要な役割を果たしたものと考えられる。

また、各教員においては、それぞれの専門性を活かした地域連携活動を行っている(前述)。例を挙げれば、学校スポーツにおける専門的な関与や、幼児教育の場における貢献等である。

(2) 講師派遣

令和7年度も、教育委員会や、地方自治体といった外部団体からの依頼により教員を派遣した。これは、本学の専門性を社会に活かす活動として重視している分野である。

7. 健康管理

学生及び教職員の健康管理のため健康診断・予防接種等を以下のとおり実施した。

【健康診断】

- ・教職員：5月27日(水) 9:00～12:00
- ・学生：(大学1年生) 4月4日(金) 9:30～12:00
(大学2年生) 4月4日(金) 13:00～15:00
(大学3年生) 4月11日(金) 9:00～12:00
(大学4年生) 4月1日(火) 14:00～16:00

【B型肝炎予防接種】

- ・前検査：4月4日(金) 9:30～12:00
- ・1回目接種：5月27日(火) 14:15～16:00
- ・2回目接種：6月24日(火) 14:15～16:00
- ・3回目接種：10月14日(火) 9:30～11:00
- ・後検査：11月25日(火) 9:30～11:00

【四種抗体検査・予防接種】

- ・前検査：4月4日(金) 9:30～12:00
- ・接種期間：2025年5月～2025年11月までの予定 ※学生により、接種回数・時期が異なる。

・後検査：2026年4月2日（木）10:00～12:00 ※対象者のみ

【インフルエンザ予防接種】

・学内実施：11月12日（水）15:30～16:00 ※教職員希望者のみ

8. 合議体活動

（1）運営評議会

学長、学部長、学科長、大学事務局長で構成され、月2回開催し、運営評議会の運営に関する事項、学部・学科運営に関する事項、教務に関する事項、学生指導に関する事項、学生の身分に関する事項、各種委員会に関する事項、教職員に関する事項、教学関連規程（学則を含む）の改廃に関する事項、教育課程連携協議会に関する事項等について審議した。

（2）教授会

学長、専任の教授、准教授、講師、助教で構成され、月1回開催し、教授会の運営に関する事項、教育課程の編成、変更、実施および講義・実習担当に関する事項、各種委員会に関する事項、学則に関する事項、学生の入学、転入学、編入学、科目履修、聴講、退学、休学、進級、留学、再入学、復学、転籍、除籍および卒業に関する事項、学生の試験に関する事項、学生の賞罰に関する事項、学生生活、学生生活等に関する事項、本規程の改廃に関する事項、その他教学運営上重要な事項等について審議した。

（3）学科会議

各学科学科長、全専任教員で構成され、月2回開催し、学科運営に関する事項、学科学生の教育に関する事項、学科教職員に関する事項等について審議した。

（4）教育課程連携協議会

学部長、各学科長、各学科教務委員1名、学長が必要と認めた者1名、事務局長、業界側委員4～6名以上で構成され、令和7年6月5日（水）、令和8年3月17日（火）の年2回開催した。学年進行が進むにつれて、本協議会での意見は活発化してきており、それを反映した教育課程の改革に向けて取り組んできている。

（5）入学者選考委員会

学部長、専任教員5名、大学事務局担当者1名で構成され、必要に応じて開催した。入学者の選考・選抜に関する諸施策の立案・実施、入学者の選考に関する事項、入学者選抜試験の内容・配点・採点基準等に関する事項等について立案した。

（6）各種委員会

本学の運営を円滑に行うために必要な各種委員会を設置している。各種委員会は、専任教員によって構成される。各委員会で、教務内、学生支援、広報関連等の業務が円滑に進むよう調整される。会議は原則として、水曜日の会議日に定期的で開催される。

（設置委員会）

教務委員会、実習委員会、倫理審査委員会、大学紀要委員会、大学FD委員会、大学SD

委員会、大学自己点検・評価委員会、広報委員会、学生委員会、国家試験対策委員会、大学コンソーシアム岡山（代表者会議、運営委員会、社会人教育委員会、就職支援委員会、共同教育委員会、地域貢献委員会、障がい学生支援委員会 各々年2回開催）

（7）魅力度向上委員会

令和6年度に受審した分野別認証評価における実地調査の場において、大学のブランドイメージを更に向上させ、魅力度をアップするために、経営側と教学側が協働して委員会活動を行う必要性を示唆されたことから、令和7年度開始を待たずして、令和6年1月から、本委員会を設け、活動を開始した。

構成員は、学長、学部長、学科長、大学事務局長であり、運営評議会終了後に、月1～2回のペースで開催し、大学のブランドイメージ向上に繋がるアイデアを共有し、広報委員会等と連携を取るようになっている。

（8）学園各種委員会

本学園の設置校全体として、連携して業務を円滑に遂行するために必要な各種委員会を設置している。各種委員会は、各校を代表とする専任教員によって構成される。各委員会の都合により、定期的な会議が開催される。

（設置委員会）

学園連絡会議、学園FD委員会、学校法人本山学園自己点検・評価委員会、防火防災実務委員会、安全衛生管理委員会、学校法人本山学園ハラスメント委員会

9. 広報活動

「オープンキャンパスの参加者数増加」と「オープンキャンパスの満足度向上(出願者増加)」の2点を最重要課題として、定員充足を目標として以下の取組を行った。本学のターゲット層に効果的なSNSを活用し、入学希望者一人ひとりにきめ細やかな広報活動を重点的に行った。

（1）オープンキャンパス・大学説明会

オープンキャンパスを10回、入試説明会を4回、年間14回実施した。参加者およびに複数回参加した高校生数は昨年度より増加した。しかしながら、実人数は〇〇(副理事長が理事長に提出されている数に3月の参加者数を足されてください)名となり、昨年と同水準に留まった。

（オープンキャンパス開催日）

【体験授業有り】

4月20日（日）、5月25日（日）、6月8日（日）、7月27日（日）、8月24日（日）
9月21日（日）、2月8日（日）、3月22日（日）

【入試説明会】

7月19日（土）、8月6日（水）、9月27日（土）、10月18日（土）

（2）高校訪問

岡山県内、香川県、高知県、徳島県、愛媛県、鳥取県、島根県、広島県、兵庫県、山口県の高等学校・中等教育学校に対して408校を訪問した。訪問時期に応じて、パンフレッ

トの提供・各入学試験への出願依頼・各高等学校における進路状況調査を伺い、出願の促進を図った。本年度も高校3年生の生徒数減少や就職希望者増加といった厳しい状況下での訪問であったが、高等学校教員との良好な関係構築に努めた結果、高校教員からの紹介も一定の効果が上がった。岡山県内の出願は減少したが、県外からの出願者は増加した。

(3) 進学ガイダンス参加

岡山県・香川県・広島県・高知県・島根県・兵庫県・愛媛県のガイダンスに29会場参加した。他大学や他分野と比較検討している高校生が多く、限られた時間の中でも本学の魅力を最大限伝え、ガイダンス参加者のニーズにあわせた資料と説明内容に気を配ることでオープンキャンパスへ誘導することができた。

校内ガイダンスにおいては岡山県内外の高校内で開催される校内ガイダンスへ90会場に参加した。校内ガイダンスのメリットとして、高校生と20分～1時間話をすることができ、信頼関係を構築することができ、オープンキャンパスへの動員に繋がった。

(4) 大学説明会・大学見学

個別相談会を随時実施し4名が参加し1名が出願につながった。

(5) ホームページ・SNSを利用したWEB広報

①ホームページ

効果的な広報ツールとしてホームページに動画を掲載するなどコンテンツを拡充した。アクセス数は令和年度184,164件に対して、令和6年度は、218,920件と増加した。

②ソーシャルネットワーク (SNS)

SNSについても積極的に情報発信を行った。SNSの中で最も効果的だったのはLINEであり、517名の登録者に対して直接、継続的なコミュニケーションを行うことができ、出願誘因に明確な効果を示した。

次に効果的なツールはInstagramで、フォロワー数は現在713名であり前年度579名(対前年122.5%)であった。本年度から在学生や教員が積極的に投稿するようになり、フォロワー数を増やすことに成功し、効果的に情報発信することができた。

(6) 高等学校教員対象説明会の開催

本年度は未実施であった。

(7) 大学案内

11月より制作を開始し、高校生目線に立って分かりやすく、伝わりやすい大学案内となるように表現やレイアウトを変更し3月下旬に完成した。

(8) 動画によるPR活動

本学では、動画制作を内製化し、学園祭動画1本、教員によるコース/分野紹介動画を4本制作YouTubeの公式アカウントに投稿した。その他製作したYouTube再生回数は広告なしで1,285回再生され、オープンキャンパスやガイダンス等においても効果的に使用することで入学後のイメージをもちやすくすることができた。

TV CMにおいては岡山県・香川県で西日本放送、瀬戸内海放送、テレビせとうちの3局

で広告を行った。令和7年度新入生アンケートの結果、「本学のCMを見たことがある人」は81%で、岡山県および香川県からの入学者には効果的であった。

(9) 進学媒体(紙・Web)への参画

リクルート、キッズ・コーポレーション、日本ドリコム、テレメール等が発刊している進学情報誌や各業者が運営するWeb進学サイトに、学校情報を掲載し、広報活動を行った。

(10) DM(ダイレクトメール)の制作、発送・配信

はがき・Eメール等でDMを作成し、本学と接触のあった進学希望者に対して、4回発送・配信した。内製し、見やすくかつ本学の魅力が最大限伝わるように創意工夫を行った。オープンキャンパスや入試等、送付時期に合わせて内容を変更し、新しい情報を発送・配信するよう努めた。

10. 入学者選抜

本学の入学者選抜の実施については、令和7年度の入学者選抜の実績を元に、文部科学省通知の「令和8年度大学入学者選抜実施要項」に基づき、学部長を委員長とする「入学者選考委員会」において実施要項を詳細に定め、これに則り入学者選抜を実施した。入学者選考委員会で選抜方式、日程、内容等を検討し、総合型選抜、学校推薦型選抜(指定校制、公募制)、一般選抜、一般選抜大学入学共通テスト利用方式の5つの選抜方式を実施し、成績優秀な人材の確保に努めた。しかし、総合型選抜の志願者数が理学療法学科では前年度より減少、作業療法学科は前年度並、学校推薦型選抜、一般選抜の志願者数も前年度並となった結果、定員充足には至らなかった。ただし、一般選抜(大学入学共通テスト利用方式)での理学療法学科志願者は前年度より大幅に増加した。

【入学者選抜】健康科学部 (理学療法学科・作業療法学科)

- ・総合型選抜【専願】(9月～12月計3回)：書類審査・ミニ講義受講後のレポート・面接
- ・学校推薦型選抜(指定校制)【専願】(11月計1回)：書類審査・面接
- ・学校推薦型選抜(公募制)(11月～12月計2回)：書類審査・学力試験：小論文・面接
- ・一般選抜(1月～3月計3回)：書類審査・学力試験：国語(現代文)、英語・面接
- ・一般選抜大学入学共通テスト利用方式(1月～3月計2回)：書類審査・令和8年度大学入学共通テスト得点利用：(国語、外国語【英語】)

(令和8年度入学者選抜日程)

選抜区分		出願期間 ※出願締切日必着	試験日	合格発表日	入学手続き期間	
総合型 選抜	A	2025年9月1日(月)~ 9月26日(金)	2025年10月4日(土)	2025年11月4日(火)	2025年11月4日(火)~ 11月10日(月)	
	B	2025年11月4日(火)~ 11月14日(金)	2025年11月22日(土)	2025年12月1日(月)	2025年12月1日(月)~ 12月8日(月)	
	C	2025年11月25日(火)~ 12月5日(金)	2025年12月13日(土)	2025年12月23日(火)	2025年12月23日(火)~ 2026年1月9日(金)	
学校 推薦型 選抜	指定校推薦	2025年10月27日(月)~ 11月7日(金)	2025年11月15日(土)	2025年12月1日(月)	2025年12月1日(月)~ 12月8日(月)	
	公募制 推薦	前期	2025年11月4日(火)~ 11月14日(金)	2025年11月22日(土)	2025年12月1日(月)	2025年12月1日(月)~ 12月8日(月)
		後期	2025年11月25日(火)~ 12月5日(金)	2025年12月13日(土)	2025年12月23日(火)	2025年12月19日(金)~ 2026年1月9日(金)
一般 選抜	1次 (チャレンジ試験)	2026年1月5日(月)~ 1月23日(金)	2026年2月2日(月)	2026年2月10日(火)	2026年2月10日(火)~ 2月17日(火)	
	2次	2026年2月6日(金)~ 2月13日(金)	2026年2月24日(火)	2026年3月4日(水)	2026年3月4日(水)~ 3月11日(水)	
	3次	2026年3月2日(月)~ 3月11日(水)	2026年3月17日(火)	2026年3月23日(月)	2026年3月23日(火)~ 3月27日(金)	
	大学入学 共通テスト 利用方式	前期	2026年1月5日(月)~ 2月13日(月)	個別学力検査等は課しません	2026年2月20日(金)	2026年2月20日(金)~ 2月27日(金)
		後期	2026年2月16日(月)~ 3月11日(水)	個別学力検査等は課しません	2026年3月23日(月)	2026年3月23日(火)~ 3月27日(金)

11. 申請関係

- ・学則変更届
- ・教員変更届
- ・学校法人本山学園 寄附行為変更認可申請

学校法人会計における決算額の推移

① 事業活動収支計算書

(単位：千円)

科 目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動収支	学生生徒等納付金	219,664	335,099	389,461	367,802	332,302
	手数料	2,965	3,354	2,851	4,288	4,387
	経常費等補助金	17,249	26,736	27,322	30,383	54,639
	雑収入	594	5,122	26,189	1,880	1,843
	教育活動収入計	240,474	370,313	445,825	404,355	393,172
	人件費	259,143	283,246	306,867	274,132	281,894
	教育研究経費	139,162	221,045	240,865	237,537	243,231
	管理経費	35,763	40,536	31,649	40,191	33,473
	教育活動支出計	434,070	544,828	579,383	551,860	558,600
	教育活動収支差額	△193,595	△174,514	△133,557	△147,505	△165,427
教育活動外収支	受取利息・配当金	0	4	8,000	70,667	115,802
	教育活動外収入計	0	4	8,000	70,667	115,802
	教育活動外収支差額	0	4	8,000	70,667	115,802
基本金組入前当年度収支差額		△193,595	△174,510	△125,556	△76,837	△49,624
基本金組入額合計		△18,802	△5,705	△6,185	△10,135	△17,020
当年度収支差額		△212,397	△180,215	△131,741	△86,973	△66,645

(参考)

事業活動収入計	240,474	370,317	453,826	475,023	508,975
事業活動支出計	434,070	544,828	579,383	551,860	558,600

②. 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部					
科 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学生生徒等納付金収入	219,664	335,099	389,461	367,802	332,302
手数料収入	2,965	3,354	2,851	4,288	4,387
補助金収入	17,249	26,736	27,322	30,383	54,639
受取利息・配当金収入	0	4	8,000	70,667	115,802
雑収入	594	5,122	26,189	1,880	1,843
収入の部合計	240,474	370,317	453,826	475,023	508,975
支出の部					
科 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費支出	259,143	283,246	306,867	274,132	277,640
教育研究経費支出	51,685	99,213	118,978	123,910	140,228
管理経費支出	34,394	39,085	30,202	38,744	31,577
施設関係支出	0	2,090	1,321	590	762
設備関係支出	18,802	3,615	4,863	9,545	16,258
支出の部合計	364,026	427,250	462,233	446,922	466,466